



奇說排悶錄前集

五

特別
八二
2460
5



21
2460
12-5

四
尾定

奇説排門録卷之五

高誼之部

目錄

熊公

武林高士

張丈

雪遘

董繼芳

新安商

陸采侯

非門録卷之五

王福徴

旅次監生

哈九

黄中

寶發生傳

合十二種

奇説排門録卷之五

高誼之部

熊公

六樹園翁 譯

熊公廷弼と云入江南地名の督学とる時時書生等の文章を長机の上
 小並べ置きか左右さ酒一さ樽と劍一口を置かてて小筆を執とり讀よむか批判
 けり其中その中佳文章よき文章又また閱よむかるか時時大白あはく酒を飲のみ此を賞ほす
 り袖つさま巻まを讀よめか劍けんを抜ぬき振廻ありま情なさけを暗くしけり斯かく公こうを用もちひ
 多おうお依より江南の内江南の内小馬才こばさい願ねん子の者ものへ理ことままる者もの一人ひとりももろろりりけり名
 高たか死し呉ご名なの馮ほう夢む龍りゆうも其門下そのもんかよりよりぞ出いでで此夢龍このむりゆうの戲作げさくをも好このむ人ひと小
 桂枝けいし兒いの小曲せうきよく葉え子し新闘譜しんとうふと云物いふもの皆みな此人このひとの作つくりり淳薄じゆんはくの子こ第だい

久し。尾をりてや一ける。中め業を忘る者も少うとむ。其
 父兄大に怒下り。夢龍が所為をわとと。口く必要路の
 夢龍が身の上か。程のちりけ。夢龍甚迷惑し。其時熊公
 告暇し。家小居らば。夢龍急舟を西江地。名小後へ。熊
 公の許小来り。熊公小見え。其夏の治らる。成精へん。思ひけり。い
 口より出さる。先小熊公不圖言か。まける。當時世小足下の桂枝児の
 曲を盛小称美さる。由聞及り。若携へ玉。老夫小二冊を惠多。望
 多。夢龍大赤面し。答へん言も無。唯恐入居。漸その
 る。あそそく。の夏起り。小依。救を蒙らん。為。遙く。泰。申
 一け。熊公。易。取計へ。心遣ひ有。先

飯をまわらせんと。暫わく。粘魚と。熊腐を粟飯の添く。出。處
 夢龍ハ斯る悪食ぬる。下。食。居。熊公曰朝夕
 美味珍羞を。食。下。書生の風。斯る。鹿。食。ゆ。と。
 下を待。如何。丈夫。者。飲食小美。悪を論。と。下。兼
 食。飽。食。其。真の英雄。相。伴。と。其。品。
 を。食。盡。夢龍も。為。方。強。著。取。食。けり。
 熊公座を。興へ。良。有。書一通。持。出。云。我。故人。某。の。許。へ。歸。路
 の。便。小。届。玉。忘。夏。と。云。夢龍曰。此。度。の。小。救。多。ん。ん。ん。ん。
 求。む。と。熊公。口。へ。む。づ。一。の。冬。此。を。持。出。贈。の。の。と。を。子。か
 此。冬。此。重。さ。數。十。斤。わ。夢龍。禮。と。受。房。が。意。快。と。本。意。と。く

立出たついでし、冬ふゆの重おもた不堪たふくもく。うち捨すてて船ふねに帰かへり。僧そうがして數かず日を
 経へる。大おほき、湊みなとに至いたる。舟ふねを泊とどめ、熊くま公こうの書かき簡かんを寄よらまはる。人の家いえも茲ここ
 ありけし。人ひと々々、屈かさむ。あつ、其その主人しゅじん、自身みづかみ舟ふねへありて、夢ゆめ龍りゆう又
 逢あひ、即すなはち案内案内し、其その家いえに至いたる。席せきに就つき、齊せいしく山海さんかいの珍めづ味あじを出いす。妓き女にょ
 數かず多おほく來きたり、舞まひ、謡うたひ、酒さけを造つくり、後のち主人しゅじん夢ゆめ龍りゆうに、向むかひ、曰いわく、先まづ
 生の文章ぶんしょう、早はや才さい辨べん。城しろ、比ひ類るいあり。天下てんかの人ひと皆みな相あ識し、成ならんるを願ねがへ、守まもり日
 計ひからむ。先まづ臨りんし、のち上かみも有あり。幸さいひあり。城しろ、天てん下かより、奇き縁縁を結むすび、さる
 あり。然しかども、當まさ地ちと貴き國こくと、遠とほく隔へり。殊こと、斯ごとく、苦くるし、死しむ。あはれを
 久ひさしく留とどめ、奉たてまつり、かこ。輕かろ微びの餞せん別べつを從したがひ、上かみ致いたせり。とらふ。夢ゆめ龍りゆう
 へ始終しじゆう、かろく、解とく。解とくせむ。先まづ丁てい寧ねい、小せう謝しゃし。暇いとがを乞こへ、舟ふねへ歸かへり。白しろ銀ぎん

三百さんひゃく兩りゆう先まづ進すすみ、昇のぼり居ゐる。則すなはち主人しゅじんの餞せんあり。叔しやく家けに歸かへり、彼かの許もと
 らまはる。熊くま公こうの當まさ路ちの人ひと、飛と札さつを送おくらまはる。力ちからより、早はや
 事こと、穩ゆか便べん、小せう静じやう、おもしろ。夢ゆめ龍りゆうへ始はじり、安やすむ。熊くま公こうの恩おん、感かんとる。と
 熊くま公こう元げん來らい、夢ゆめ龍りゆうを愛あいせむ。夢ゆめ龍りゆう餘あま才さいを顯あらわす。名なをかや
 か、あつ、戒かいめん。とら。とらと、廉れん略りやくありて、あつ。城しろ、富とみ人にんの、借か
 け、財さいを助たすけ。難なん儀ぎの筋すぢをも、人ひと知しまむ。救きうへまはる。英えい豪かうの、多おほく、人ひとの
 測そく知ちる。とら。とら、斯ごとく、如ごとく。

武林高士

嘗む孝かう廉れん、孝かう廉れん前ぜん。小せう心しん、らまはる。吳ご郡ぐんの地ち、徐じよ昭せうと云いふ、死しせり。時とき貧ひん窮きゆう、
 葬そうを營いむる。あつ、難なんかり。其その友とも、武ぶ林りんの地ち、高かう士し、何なに某ごとく、吊たがひり來きたる。

此伴をえん。葬すの事を一人し引受て。此人も又貧しく。貯るるをけしども。元來八分を善かたけし。其近邊の家を貸し書を書き。其直を積と此支を遂行んと謀す。其國の人。此由を告げ。其高義を尊す。我もくと買つる程。勿忽數十金を得。乃日を止。葬す。其餘る金を徐昭子に與へ。喪中の入用とせしむ。何某云々。吾富人の請。是程の金借来らんと。最易とせし。先生の靈恐ら。悦ぶるに依り。斯の謀ひしと云々。其姓名の傳はるる。惜むべし。事あり。

張文

揚州府志卷之五 刑部主事の官 時河間府 楊繼宗 謝名 刑部主事の官 時河間府 楊繼宗 謝名

一人を捕へ。張文。郭禮と云二人の者を付。彼盜を警護。京都へ上せ。此盜途中。夜の間に柳極を引切。遁去。翌日二人共死。無益。吾の母有と兄弟。汝死せば老母も亦死せん。所詮吾の盜あり。柳極を加へ我を送。京師へ至。盜を取。遁せ。其深く韜むべし。左の吾人死。汝母子二人を助。と云。けし。郭禮候を流し。謝し。其計の如く。刑部へ詣。時楊繼宗。張文が言語動止。盜し。死者と見え。孤恠。委く吟味せ。けし。郭禮實情を白状。繼宗張文が義を感。二人共釋。其真の

盗も不日捕へばとけるぞ。

雪遣

海寧地名の查孝廉名を培継字ハ伊璜と云人も文才人又勝色氣象俗を
らむ世人の皆俗なるを厭ひく。格外なる處を尋とそ。真の豪傑のハ
めと常め言ひける。或日只獨酒飲と居る折一も歳の暮り大雪
頻降多り。孝廉此景色を獨賞せん本意あると。門を去り四方
望み之食入廡の下に立居る。孝廉熟くと見く此凡人ハ非トと
呼く伴ひ入ると問く曰此項人の噂を聞ふ杖をもつて物もいそ敷
服を着く。然も空腹なる。饑寒なる顔色もせむ。異名を鐵巧といふ者
と。聞及ぶらぬと問く。然と答ふ。酒ハ吞やと向ふ能飲候と答ふ

孝廉侍童命く。大器酒を酌と與へめけ。忽飲盡く。孝
廉大喜と重と酒を煖めさせ鐵巧約束く。曰汝ハ其大器中飲べし
我ハ此后ゆく飲んと。酒盛を始む。かの鐵巧大上戸ゆ。大器中
二十杯餘飲く。酔ふ氣色もろなる。孝廉ハ既醉と仆と臥せり。侍
童等肩ぬ掛と奥へ入ると。鐵巧も去る。又廡の下に歸と其夜を
明したる。翌朝孝廉目を醒し。家内の者も云く。昨日鐵巧と酒を飲
と甚樂し。彼が着る藍縷ゆ。此寒氣を禦んと。自身
の綿入をかくと與へさせ。彼鐵巧其服を着く。孝廉ハ禮謝をも
せむ。何困とも死なす。けり。明年孝廉ハ杭州名の長明寺と云ふ
寓居し。三月の初友人少く打連酒を携て西湖名遊び。時故鶴

亭わづらひ林和椿つるをたけなすの儻たけなすゆくと又彼鐵巧てつこうは遇あひする。其体そのていま冬の服ふゆのふくあつと。
 又先またの如ごとく藍縷あいらするも。孝廉こうれん彼鐵巧てつこうをたけなす寺てらに歸かへり。綿わた入いれハ如何いかせしと
 問とけし。最早もともと春はるぬるりくと暖あたたかまる。賣うりく酒さけを飲のみると答こたふ孝廉こうれん面おもて
 白しろくゆひ。書かきを積たるると問とふ。書かきを積たむらわく。巧たくま入いれるとるるとと答こたふ。
 孝廉こうれん驚おどろくと弥常やじょう人ひとはあつととゆひ。沐浴よくよくさせさせ衣服いふくを改あら着きせ。其姓そのせい名な
 生なま所ところを問とふ。巧たくま者もの答こたふ。僕わが姓せいを吳古ごの陳平ちんぺいが才能さいのうと慕あこむ。
 奇き升しやうと後ごと敵てきと破やぶる。名なを六奇ろくきと付つり。代しろて延陵えんりやう名な在あり。後ご學がく名なを
 人ひと賞あやしと六奇ろくきと呼よぶ。徒あね。早はやく父兄ふあにを失うひ。僕わが博はくを好このむ。家産けさんを傾かたけ。遂つひに巧たくま所ところに流なが浪なみし。
 此邊このへへ来きるとり。熟じやくく思慮しりよする。昔むかしの賢者けんしやとて。時ときに遇あはさむ。乞食こくじやくとある
 人ひと往ゆくとわむ。僕わがが如ごとき者もの乞食こくじやくとある。恥はぢぢる。巧たくま所ところに然しかる。巧たくま所ところに

おも明公めいこう眼力がんりきあり。僕わがを乞食こくじやくの中なかよりえせし。其上そのかみ兩度りやうどまぐ衣服いふくを賜たま
 へる。城しろに大恩たいおんを。僕わが彼か淮陰わいゐんの少年せうねん也なり。
 ぬとも。此この一飯いつぱんの恩おんを忘わすれざる。あつとと云いふ。孝廉こうれん座ざを起おこす。其そのみを
 握にぎり。日ひ。吳生ごせいの城しろに海内かいにの豪傑ごうたけを。我われ唯ただ酒友しゆゆうありとゆひ。足下そくかを足下そくかと見み損こひ
 すと。林美りんびし。寺僧てらそうを雇かひ。梨り花か春しゆんと云いふ。酒さけと一石ひとしやく買取かひと。而しかも日夜にちや酒
 盛さかし。數月すうげつ過すぐ。路費ろひを與あたふ。故郷こきやうへ歸かへらせむ。此この六奇ろくきと云いふ。先祖せんぞより。朝
 列ちやく細こみ居いる。昔むかし觀くわん察さつ目めの官くわんを。吳道夫ごどうふが後胤ごゐんなり。畧りやく持書ぢしよも通と
 せし。甚博しんぱく奕あを好このむ。故ゆゑ遂つひに家いへを失うひ。郵卒ゆうそつと成なる。久ひさく居いる。故ゆゑ
 山川さんせんの險阻けんそ路徑ろけいの遠近えんぢん。皆みな精せいしく。培つちかひを。其その後ご清せいの帥しゆい次第しだいに攻せ
 來きす。遂つひに大畧たいりやく天下てんかと定さだめると時とき。廣列くわうりやくへも攻せ來きす。廣列くわうりやくの者もの共とも皆みな山



谷の間の道に二人も捕ふ。捕ふ者あり。時六奇獨
 徐の歩來まると。邏兵執て。本陣へ送り。六奇大將の見く貝の粵
 の地理を説いた。僕と兄弟の約をる者。者三十人あり。皆雄武
 あり。天下の明主あるに依る。各軍勢を集め。所々一揆と成て。わ
 今明主天下を定め。官軍南へ下る。誠の萬民獲生を得。豪傑功
 を立るの時至る。願ふ僕に。三十通を假し。王彼兄弟共を諭し。七
 味方はせいへん。左あり。近死者を馳。森と遠死者へ。靡死従ひ。誠の破竹
 の勢あり。一月の間の。此國皆平均仕らんと。大將其言。所の如くせし
 久。暫時の粵の困。悉平均し。此後六奇の數。日の堅陣。強敵を伐破て
 勇名を揚げ。奇策妙計を運。大功を立。閩國を征し。蜀名成

討し。時六奇の度。奇功を立。數年の間の。通省水陸提督。者所の水
 官の位。至る。初六奇が流浪し。巧人とあり。時六奇の生涯埋。木
 あり。と思定め。居る。査孝廉。遇く。衣服金銀を送。其上
 海内の豪傑あり。見定め。天下の第一の知己を得。遂に
 心を勵し。七奇功を立。匹夫と興。大將軍の登。康熙の初。二
 府を循。別み。用。時。牙將を遣。三千金を以。孝廉の家。贈。別
 別。書。并。幣。物。を。具。孝。廉。を。邀。孝。廉。即。與。之。類。舟。并。與
 輿。等。其。外。の。調。渡。皆。美。麗。を。送。行。く。梅。嶺。度。嶺。と。名。を。越。ん
 と。六。奇。が。子。息。の。吳。公。子。を。迎。大。孝。廉。を。尊。敬。も。夫。と。時。吳
 樓。船。の。衆。徒。五。箏。樂。を。奏。る。昏。江。江。流。小。頃。南。へ。下。る。時。吳

六奇が轄下の文武の官属皆孝廉ふんえんと我もくと争ひて贈り物
 一ける程錦綺珠玉山のごく積上り。首列の城下二十里の外や。六奇
 自身出迎へ。前中を嚴重の道と拂ひ。後中を千騎計も従ひ。續々其行
 装諸侯王天子の一族の大名。必方らむ。既府に至る時孝廉と上坐。直六
 奇首を地ふつけ。曰昔流浪せし時先生の遇。一生乞入申す朽果
 翁と。今日の栄花は皆先生の力。今先生幸ふ降臨し。辱るる色
 とく喜び。孝廉此地の居るより一年。軍務何とせと。數ヨリ。孝廉
 廉一言を告げ。六奇皆敬ぶ。其言の隨ふ故。諸人益孝廉を尊敬し。贈
 物幾千万と云。數を告ぐ。孝廉家へ歸らんとする時。六奇又三千金を
 与。曰此輕微の賤。勿論先生の高恩。萬分の一も報せざらば。後と。唯

聊惟陰の少年が徳を忘るるあり。つりと云く贈多。其後孝廉が
 の上。不意の大難出来ぬ。其原の先年。甘中名の富人。壯健と云者。明の
 困姓命朱相困の史。概と云書を得。博く兵中の名士十八餘。積と増益
 修飾し。御本とつけ。時。査孝廉名高。文入りけ。竊其名をも
 右の書。参閱考訂の連名の列。小書加へる。其後此事。朝廷へ。其書
 小加のり。人皆死罪。小減せ。る。其決せ。明の爲。義を揚。る。困姓命が
 六奇。査孝廉實を知らざる由を。詳。奏。一。辨。と。此難を。救。ひ。兵。多
 孝廉。益。世。小。六。酒。と。持。と。衆。樂。と。かの財宝。と。半。く。美。死。重
 女。十二。人。を。買。と。歌。舞。を。教。へ。良。夜。必。無。を。垂。燈。を。張。り。舞。歌。せ。且。借
 声。花。の。容。簾。外。の。度。れ。と。觀。る。人。心。を。奪。り。孝。廉。の。夫。人。も。喜。律。小。稽

く違へけり。自拍板を打て。伎女共の音曲を奏せし。正室は是を故に査氏
 の女樂を元術細の中第一と稱せし。昔孝廉は其の許に在り。時園林の
 景色極くよき。中み大なる英石峰。百の形を白くし。其の如く。英石とも
 一有る。高さ二丈許。其見更なる。言はん。孝廉大に賞美し。一
 名を縹雲とす。其後十日計。怪しく。孝廉又園中み往々。彼石にへん。成
 推して。之を向ひ。かの賞美し。其の成。兵將軍が。や。大船のせ。孝廉
 の家の贈。遣あり。ありけり。江を渡。山を越。其費用。又千。百。餘
 餘。今。の世と成。と。査孝廉。栄花も。夢と。歌舞の美人も。皆
 年老。林荒池の水も。涸ぬ。英石峰。も。舊。形見。其儘。と。ま。り
 也。

董継芳

董継芳。地。の大學子。董継芳と云者。城京。地。の小樹村と云地。に住。其
 父仲璋。同縣の人。吉夢川と云者。券を以て。百金を借。貧し。返
 得。其後打。續。中璋も。夢川も。死。孫。惠迪。中璋。券
 券。継芳。負。然。遂。催。促。せ。り。死。継芳。へ。と。ち。借。金
 ぬ。る。成。知。ら。ば。券。を。持。ち。催。促。せ。ら。る。事。を。休。む。惠。迪。が。許
 ぬ。往。家。屋。敷。を。以。て。借。金。の。代。り。與。へ。んと。云。惠。迪。引。せ。ぎ。再。三。強
 くと。云。け。れ。ば。車。に。通。り。せ。り。領。山。を。其。後。飢。饉。の。時。惠。迪。彼。家。を。外。へ。賣。り
 が。百。金。よ。り。値。減。し。たり。継芳。又。其。不。足。せ。る。程。の。金。を。人。に。借。て。惠。迪。が。許
 ぬ。持。行。く。日。君。が。祖。吾。父。と。睦。し。かり。と。ま。り。百。金。を。借。し。王。へ。先。達。し。其

償ふ泰きく。家の値百金不足せりと何故か此金ゆく補へんと云ふ
けし。惠迪堅く辨し。曰彼家實を百金に當るが急め賣んとせし
故に少く下直なりし。君が與るるの非むと云ふ。あらは受む故に継芳
も為方々。近隣の人を雇ふ。惠迪へ様と云けし。已事を得む。其金
を受ふ。縣令陳汝明。此の成聞く。兩人の義を賞し。文を作す。此夏
を記さむ。

新安商

新安地の商人何某と云る者。萬曆年壬午の年。江西地へ賈み行し。時九
江を過る。舟小盜賊の。衣服調度を皆奪去す。船中に入七人あり
皆裸より。悲居る。成此商人見付く。衣食を與ふ。後何方行人

そと尋ぬ。何事も秀才より。都へ及第。往者あり。と云。商人此を便て
夫々資斧を贈り。皆泣を流し。喜まむ。翌年此中六人
進士。学校の役名。六人の中。八方萬策と云入。數年過く。此萬
策。嘉湖地を分巡せし時。副使屠冲陽の家。酒宴を招き。其家僕
の中。先年難を救ひ。商人雜に居る。成萬策。遠く見付く。呼び。問
く。曰。爾ハ新安の商人何某ありや。と云。然りと答ふ。江西地へ往し。のわ
や。と問へ。ありと答ふ。八年以前。江中ゆく。盜み遇し。秀才共を救ひし。覺
ありや。と問ふ。此商人良久くわき。漸くひか。あつるのあり。と答ふ。萬
策此を便と齊し。坐を立。商人の前。跪く。曰。吾が恩入る。數年。同尋
ぬ。と云。行方知ま。何故。斯く成玉。ひとと尋け。を答く。曰。追々損失

打續死家産を破す故已むる成得ざらん。此家自身を憐れむと答ふ。
萬策直小屠冲陽の告く此商を署中へ伴以歸す。叔同難の人々此由云
遣々各厚く贈物をあやぐり。萬策ハ別ハ千金を贈り。此商人怒りて
富人とあつくと。故郷へ歸すなり。

陸采候

呉門の陸采候と云者心爽ぬ。或時何某と云る商人
其家亦来と細綴子等の品々を買取と。已の帰らんとしける折節九月
八日ありけり。陸采候此を留めと曰明日も重陽なる例の如く山を登り
酒をそ飲べと。此佳節を喜びと。舟路ぬかす王へんる。無下あらずと。
強く留めけり。商人も最こと同じ。則其貨物共を外の宿所へ置く。

翌日采候又従と。治平寺と云山寺の上。終日醉を盡しと歸けり。其日
彼ら一置家失火と。貨物も焼失ぬ。采候驚死る。商人も高小
向と曰。此貨舟積る前。我貨物も同じ。況や君已昨日帰らんとす。成
吾強く留と。死強く留む。此災ゆえ罹るなり。然も此貨と吾償を
免る勿論と。其値を残り。與へけり。商人も甚感し。喜と去る。陸
采候を弟と同居し居る。其後陸采候が鄰家より。火事出来けり。
陸氏が家を残り。残り。左右の家々皆焼失る。程徑と又前の如く焼
く。陸氏が家へ今度も恙なく残り。其時左鄰の高牆。陸氏の
方へ仆と。折し。采候兄弟。其下小む。と。此を觀る人敬馬悲
く。西へ定と。微塵もあらず。急ぎ堀出し。此を見。此を。

壁の中（中）自空（自空）ある所（所）ありと。采候（采候）兄弟（兄弟）慄々（慄々）坐し居る。兩人（兩人）共傷つる。危（危）難（難）を免（免）まるとある。

王福徴

慈谿縣（慈谿縣）の名王福徴と云者。諸生（諸生）の時請待（請待）せる人の許（許）へ往くとある道。小溪川（小溪川）あり其傷（其傷）は白金（白金）二袋あり。用（用）たると六十七封あり。何とぞ其主へ還（還）ると思（思）ひ往くとある方へ行く。晩方（晩方）やむ待居るとある。一人遠くある者あり。福徴此人ありんと思（思）ひ汝失（汝失）つる物ありやと問ふ。此人（此人）は合くと曰（曰）其債を取（取）り集（集）り。銀百七十兩を得るとある。本（本）心（心）あり。江を過（過）り米を買（買）んとある。若拾（若拾）入者あり。半を贈らんと云くとある。福徴其銀の數を問（問）るとある。皆

符合（符合）しけむ。悉く還（還）し與（與）へぬ。此人半を分（分）り贈らんと云福徴曰。吾の（吾の）其半を食（食）む程とある。始（始）りて汝（汝）は還（還）さず疾持（疾持）り歸（歸）るとある。今（今）は此所（此所）に待居らんとある。受（受）むとある。此人拜謝（拜謝）しとある。是年福徴とある。郷薦（郷薦）。免狀（免狀）を領（領）り。萬曆（萬曆）乙未（乙未）の年進士とある。追（追）て立（立）列（列）しとある。終（終）は模列（模列）の太守とある。後職を辭（辭）しとある。家（家）に歸（歸）り。長壽を得（長壽を得）と終（終）りしとある。

旅次監生

京師（京師）の分負者數人相議（相議）し。銀十兩を貸（貸）り資本とある。鴛鴦（鴛鴦）を焼（焼）くとある。賣（賣）り。渡世（渡世）とせん。則（則）頓銀店（頓銀店）あり。鑿（鑿）を借（借）り。其銀（其銀）は割（割）り。如何しけん。割勢（割勢）あり。其重八錢（其重八錢）目（目）あり。一塊（一塊）を散（散）り見（見）えむ。方々尋（方々尋）官（官）あり。

共ふのふんえど。後ゆへ互ふ争裏ふ及び々々せむせん方ちく帰せたり。
 翌日ふ至つて其者共又此所ふ集て争論する成其家の樓上ふ旅宿
 せし監生。監生ハ無学の入金をかて秀才の類あり。貸付て下下と来て其故を問ふ。
 衆あつての由を生口けし。監生曰吾昨夜樓門の檻のりふ銀一鬼と
 得て此汝等が失ひ銀あるべし。とて返へ與へる皆々大に喜ぶ。半
 を監生に贈らんと云。監生辞して曰吾銀を得んと欲る拾はるるに匿して
 言登りて。且爾等貸来る銀を吾何ぞ分ちらるる忍んや。とて受て
 けし。衆あつて其恩に感て喜ぶ。歸て何と云く此恩を報せんを
 圖つて。其後此者共追て利を得て世を渡り。或時其邊へ小児を鬻んを
 伴ひする者あり。彼等此由を貸付て則三百文ふ買ひて。相見ると監生は

送アて僕めせん。とて直ふ旅宿へ伴ひ行つて。此小児監生をんとて。参り
 と呼と泣びて。監生も涙を流して喜ぶ。此児ハ監生の子や。八
 歳るや。三月をり前ふ張家灣と云ふ地あり。好人は勾引して
 失ひたり。監生又皆々銀を與て。厚く謝して歸る。

哈九

江南名の早西門の傍ふ回々園。下を宋ア。哈九と云者あり。飯を賣
 を業として居る。ある時江浦名の者。年貢の銀五十兩を携へ来て。志を
 置て去る。其跡少く哈九此をん。急心追懸て其主を返して。此人
 喜ぶ。感て別して。金を忘れり。人江浦名に至り。時大風あり。舟
 一艘覆る。成て思ふ。今日志を置る金を哈九が我に返して得せり。

滅不意の財を得る。此金を陰徳をふさんと呼ぶ。漁舟を呼ぶ。日一人を救ひ得る。銀五両を與へると呼ぶ。魚舟共多く来て手々。小働ける。只一人を救ひ得る。其姓名を尋ね入ると。ハ九が子ゆく有る。黄中

黄中

順治の年。比龍谿名の農夫黄中。と云者。其子小三。と小舟に乗。江列の東門。小往。糞を買ひ。父子。廁。擔。其。廁。腰。一。拾。得。舟。持。帰。閑。白。銀。六。封。黄。中。曰。此。此。廁。入。者。の。忘。富。貴。の。人。自。身。銀。を。腰。付。け。貧。乏。人。此。程。の。銀。を。命。も。係。る。尋。來。入。を。待。居。て。返。

與ふべし。と云く。且。小三。父。の。言。を。聞。く。様。と。争。へ。少。し。も。聽。入。ず。怒。り。成。會。父。告。む。獨。家。小。歸。け。黄。中。父。く。待。居。ふ。遂。向。も。周。章。走。來。る。者。也。急。ぎ。廁。入。見。廻。徘徊。し。號。泣。黄。中。呼。く。其。故。を。問。ふ。答。曰。我。父。罪。を。山。賊。と。吾。父。を。指。し。黨。と。云。故。小。三。守。我。父。を。獄。入。此。頃。貴。人。小。喝。し。此。の。成。歎。於。所。彼。貴。人。の。扱。以。頼。守。父。を。救。し。且。謝。禮。と。銀。百。二。十。兩。を。贈。ら。ん。と。約。せ。り。そ。田。宅。を。鬻。り。親。友。の。助。力。を。乞。ふ。其。半。を。得。先。を。贈。父。を。獄。より。出。す。後。父。子。力。を。竭。し。其。餘。を。鬻。ん。今。日。此。銀。を。腰。付。く。道。を。急。死。が。此。所。ゆ。廁。入。銀。の。包。を。解。く。用。事。を。辨。ト。廁。を。知。時。餘。す。



孝廉の事

華本繪像撰



查孝廉培
 雪の日
 乞食鐵巧を
 友と
 酒を酌

孝廉の事

心邊と。かの銀を其儘忘色置ぬ道ゆく其る成りゆき。奔り還り尋
 索色とも見えぬ。此銀を失と父の死を救ふ術を盡すべく。涙を流し
 悟りて。黄中祇の色と銀の數と成。具の尋るる皆符合しけり。其銀
 あり。我久し。汝を待居るを。返り與へる。其人駭驚に喜す。一封を分ち
 贈らんと云。黄中辞し。曰。我貧る公あり。六封を還し。一封我受んや。汝
 速に行べしと云けり。其人厚く謝し。去る。黄中へ。小三を待居るを。成り
 來りけり。一舟の棹さし。帰る。中途ゆく卒。風雨起る。故わり
 近村黒舟を漕寄せ。風雨を凌ぎ居る。被大兩ゆく。川岸少く崩
 れる。跡の獲。二つ。黄中此を見。米を儲る器とみ。舟へ取
 入。んとせり。其獲。錫めく口を封し。中。何物を納。置。え。其。重る

一舟ゆく。舟へ取乗せり。其間。兩を。風。静。月。梢。明。舟を漕ゆ。家へ歸り。早夜半。家。小三。今日。の。事。を
 母。語。兩人。皆。謂。居。黄中。戸。を。開。呼。け。共。應。へ。せ。曰。我。路。中。室。の。獲。を。得。早。く。内。へ。取。入。れ。と。云。母
 子。共。駭。驚。と。出。來。舟。中。を。見。月。の。光。中。獲。の。口。耀。き。雪。の。如。く。え
 西。人。喜。く。舟。下。家。へ。歸。入。錫。を。數。ち。云。内。皆。白。銀。也。大。抵。千。金
 計。も。有。ら。ん。と。見。黄中。大。駭。驚。と。始。偽。と。言。信。め。ら。る。受。と
 云。け。此。鄰。家。の。唯。一。重。の。葦。牆。を。隔。三人。の。言。皆。洩。色。皆。え。鄰
 人。賞。を。得。ん。と。望。日。此。由。を。縣。令。へ。訴。へ。け。即。黄中。を。執。く。此。を。訊。り。
 黄中。少。も。藏。さ。ず。昨日。銀。を。還。り。事。を。獲。を。得。し。由。を。具。言。述。け

是日善を為者ハ必其報あり其獲る天子を汝賜ひ一物也他人の知所ありざる由る死る旅館に託し居りて。許人を答曰黃中を釋して歸しけり。是より黃中々城内の家を遷し。富人とありて居りて。

寶發生傳

順治の初金華の戦破色一時寶發生と云者死骸共の間に臥し居りて免を得ず。軍卒の妻を掠らるる。わどへ其軍華亭地名に陣をとりて。取多の妻の耗を乞ふ。往ける。路銀を使い盡し。旅館の宿を乞ふ。旅館の主人其貌を視て憐れ。何方へ往人そと尋せしむ。主人曰若文字會計を乞ふんや。生答く。若くせんといふ。主人云。若我家に留りて我を助け。徐に余が妻の耗を尋べしと云けり。其

甚と喜くと則其家小居り主人の勞を助け主人をよめたり人をえり。家業益繁日一日々大に喜ひ居り。此家一人の女あり。生も妻せんと欲せり。言ひて。折を待居り。或早朝一人遽し。此婦を來り。飯を食し。値を乞ふ。又急にお行を爲。其跡を遺し。物の多るを。啟死んを。銀五十金あり。主人のめくと告ぐ。其返りて。待居り。午の刻むる。其人又周章とて。走り來り。汗を流し。死つ。猪所を見廻し。茫然と。居り。生何故と問ふ。此處に銀を遺れ置り。と云。生其數を問ひ符合しけり。又問其銀ハ何小用あり。答く曰華亭の營中ゆく。掠置る婦女を賣由を聞し。生依り一人を買ひ。妻とせんと云。生云。金ハ我叔を置り。返すべし。憂るる。と云。出。與へ。喜と并謝し。去る。數日過く。後其

人の許しを、使札をかきとく。足下金を還り、恵ふとせむ。事既、酒を進ぐ
 の日、婚さるる事。此婚ハ君の力也。其日、ゆ々此館の主人と。足下と、酒を進ぐ
 せん、必来、王へと云ふ。生固く、辭し、主入曰、我ハ暇ある事、行難し。故々
 辭退すべく、冷と云故、生まらるち、行へしと約し。其便を返し、名已、其日
 成て、往く、えける。家のさむ有徳、見也。未ハ、むく、つと、あるふ
 立、門前の小川の邊、を同歩し、居ける。一葉の扁舟を、漕來る。其中、
 麗服し。花、髪を束、婦人、面を掩、坐し、居る。則、新婦、岸
 近く、る、時、生、と、彼、婦人、を視、紛、る、故、の、妻、る、此、時、婦人
 も、と、生、を視、る、故、の、夫、る、各、駭、と、生、の、草、の、上、の、位、體、と、妻、の、舟、の、中、
 位、伏し、居る。扱、門前、の、漕、着、ける、時、婦人、岸、上、と、云へ、共、面、を、持、て、

泣、居る。惟、其、故、を、問、ふ、答、曰、只、今、一、人、の、男、子、を、視、る、故、の、夫
 不、善、似、る。故、悲、死、不、堪、ふ、つ、と、云、ふ。そ、れ、何、如、何、様、の、人、ぞ、と、云、へ、
 其、年、齡、衣、冠、を、具、ふ、答、へ、る。生、の、紛、れ、も、あ、ら、う。此、家、の、主、人、扱、と
 答、ふ。生、を、尋、求、む、を、生、の、草、の、中、の、位、臥、と、死、得、る、何、故、ぞ。と
 問、へ、と、答、へ、る。強、く、問、は、す。只、今、一、人、の、婦、人、を、見、し、と、云、へ、と、云、へ、と、涙、不
 咽、と、語、り、得、む。其、人、曰、我、已、明、知、る。是、婦、人、の、足、下、の、故、の、妻、也。前
 日、足、下、我、金、を、拾、ひ、得、る。其、金、ハ、則、君、の、金、也。足、下、我、を、重、と、此
 を、吾、に、還、す。吾、其、金、ゆ、く、婦、人、を、贖、る。天、下、を、我、の、命、と、足、下、夫、婦
 を、わ、せ、し、む、る。吾、前、日、足、下、の、金、を、返、す。義、の、感、を、故、今、又、是、婦、人、を
 足、下、に、還、せ、と、云、へ、と、共、生、の、事、穩、る、と、肯、へ、む。其、人、則、旅、館、主、人

を頼と。此事を判せしむ。主人云。金を還せ者。義士也。然。共妻を迎て。
妻を失ふ。本意あるも。幸。我の一女あり。婦を還せ。人。小妻せんと云。之。
バ。兩人を初め。聞人。之。去。多。と。同。一。と。其。詞。の。從。ひ。旅。計。主人の。義。心。を。感。す。

四
尾定

奇説排門録卷之五了

